平成２７年度　香月小学校　職員研修
【研究テーマ】キャリア教育

人や社会とのかかわりを大切にしながら，自分の夢や希望に向かって，よりよく生きようとする児童の育成
～ キャリア教育の視点に立った総合単元的な道徳学習を通して ～

１　はじめに

近年，少子高齢化，産業・経済の構造的変化，雇用の多様化・流動化が進む中，児童生徒の進路をめぐる環境は大きく変化してきている。この急激な変化に伴い，若年層の離職率や就業する意思のない若者が増加するなど,若者の勤労観や職業観についての課題が大きな社会問題となっている。また，生きる上で必要な「知恵や態度」を生活の中で身に付けることが難しくなっている現状や学習が日常生活に役に立たないと感じている児童の増加による学習低下，さらにコミュニケーション能力，自己肯定感などの低下なども学校教育の大きな課題になっている。

平成２０年３月に改訂された学習指導要領には，児童生徒の発達段階に応じた，教科領域を横断する「キャリア教育」の重要性が示されている。若者を取り巻く様々な社会問題のみならず，児童生徒が「生きる力」を身に付け，主体的に自己の生き方を選択・決定し，社会人・職業人として自立していくことができるようにするための教育の推進が喫緊の課題とされている。

しかし,「キャリア教育」の必要性が叫ばれているにも関わらず，教師は，その重要性を理解してはいるものの，日々の教材研究や事務処理，生徒指導の対応などに追われ，多忙を極めており，具体的にどのようにキャリア教育を推進すればよいのか路頭に迷っているのが現状である。

目まぐるしく変化していく社会で児童生徒が自立してたくましく生きていくために，望ましい職業観・勤労観を身に付けることが不可欠であり，小学校段階からの適切なキャリア教育を推進していくことは今後一層求められると考える。目の前の児童の「今」だけでなく「将来」につながるような教育を推進していためにも教員の意識改革を図ることが最重要課題であると考え，職員研修で「キャリア教育の推進」を位置付け，全職員で研究を進めていくこととした。

２　研究主題設定に当たって

(1)　推進上の現状と課題

本校では，平成 25 年度の教育課程編成において，キャリア教育推進のための全体計画・年間指導計画を作成し，教育課程に位置付けている。しかしながら児童の発達の現状を踏まえて計画を作成するまでには至っておらず,学校の特色や教育目標に基づいた全体的な方針を定めた上で,児童のキャリア発達を促すための全体計画・年間指導計画の内容を見直す必要がある。

また，これまでキャリア教育に関する研修会などに参加したことのある職員は皆無であり，そのためキャリア教育に関する知識が不十分である。学校全体で系統的なキャリア教育を実践するためにもキャリア教育の理論研究は欠かせない。

(2) 児童の実態から

ア 全国学力テストの意識調査の結果から

- 「自分にはよいところがあると思うか」（「はい」と回答→２割）
- 「難しいことでも失敗を怖れないで挑戦しているか」（「はい」と回答→２割）
- 「地域行事へ進んで参加しているか」（「はい」と回答→３割）
- 「物事を最後までやり遂げて嬉しかったことがあるか」（「はい」と回答→６割）
- 「将来の夢や目標をもっているか」（「はい」と回答→７割）

意識調査の結果から見ても，本校児童は，自分のよさを見出したり，新たなことにチャレンジすることが苦手と感じている児童が多いことが分かる。また地域行事への関心も低い。

本校では，昨年度から「ふるさとを誇り，夢を育む教育」を推進している。上記の結果から，約７割の児童が夢や希望をもっていると回答している。しかし，普段の生活の中では，「今，やっている学習が将来どんなふうにつながるのか」，「知りたいことを進んで調べよう」とする項目に関しては，あまり意識されていないことが分かった。

イ SWOT 分析の結果から

６月に行った職員研修で，本校児童に関して，SWOT 分析をした結果，概要が下の表のようになった。

強み　機会（よい）	弱み　脅威（よくない）
○ とても素直である。	▲ 自力で課題を解決しようとする力が弱い。
○ あいさつ，返事，話を聞く態度がよい。	▲ 規範意識にやや低さが見られる。
○ 友達と協力して活動することができる。	▲ 地域とのかかわりが薄い。
○ 与えられたことはしっかりと頑張れる。	

この他にも，本校の児童の実態として，朝のボランティア活動や体力つくりなど，高学年を中心に，自分にできることを考え，自分の役割を見つけ出して行動しようとする児童が多いというよさがあげられた。しかし，目標に向かって何ができるかを考える力やうまくいかなかったときに次にどうすればよいかを考える力が弱いという課題も出された。

これらのことから，本校の児童は，現在の学習や体験活動などが将来の自分にとってどのように役立つかといったことを理解させたり，様々な課題に対し，自ら解決しようとする力を身に付けさせたりすることが必要であると考えた。

ウ 家庭・地域との連携の実情から

小学校におけるキャリア教育では，家族や身近な地域の人々のかかわりの中で，その一員であることを体験的に理解させることが求められている。しかし，本校児童の地域行事への参加率が３割程度で地域の問題や出来事への関心が全体的に低い。また，キャリア教育を推進する上での諸機関との連携を見ても全体的に少ない傾向にある。地域の人材や郷土素材を積極的に取り入れた教育活動を推進するとともに家庭や地域などどの連携・協力をもっと強化していくことが必要である。

エ　小学校段階におけるキャリア教育の重要性から

キャリア教育は,全教育活動の中で６年間を通して意図的・継続的に推進していくものである。小学校では，低・中・高学年と成長が著しい中，社会的自立・職業的自立に向け，その基盤を形成する重要な時期である。この時期の児童にとって，重要なことはまず夢や希望をもつことであり，その夢や希望を実現させるためのプロセスに目を向けたり，自らを高める中で，自己理解を深めたりすることが必要である。さらに，小学校での集団活動を通して社会人として必要な自立性や社会性を育み，一人一人の児童がそれぞれの進路を探索・選択していくために必要な資質や能力を培う重要な時期である。

そういった自ら学ぶ意欲や学び続けるための基礎的な資質・能力を子どもたちが身に付けることにより，中・高等学校や大学校の職業選択をする際，自ら進路を決定する力を育み，さらには，将来にわたってよりよく生きる力を身に付け，自立した社会人としてたくましく生き抜いていくことができると考える。

以上のような理由から，本校では次のような研究主題を設定し，キャリア教育の推進を図ることとした。

3　研究主題

人や社会とのかかわりを大切にしながら，自分の夢や希望に向かって，よりよく生きようとする児童の育成

～ キャリア教育の視点に立った総合単元的な道徳学習を通して ～

キャリア教育を推進するための全校態勢で取り組む校内研修は，子どもの実態や学校教育目標，職員の実態等から明らかにされた課題に向けて，全職員が課題解決に向けて共通理解，共通実践することであり，その過程で職員同士がともに学び合い，指導法の改善に努めることが確な指導力につながる。そこで本年度は，道徳学習に焦点を当て，キャリア視点に立った道徳の授業をどのように展開してばよいかということを全職員で研究していくことにした。

4　研究における仮説

これまでの教育活動をキャリア教育（キャリア発達）の視点でつなぎ直し，様々な人や社会とのかかわりの中で学び進めることが，本校の児童のキャリア発達を促し，よりよく生きようとする資質・能力を育むことにつながるのではないかと考え，次のように仮説を設定した。

全職員がキャリア教育の視点をもち，それぞれ教育活動の中にあるキャリア教育の断片をつなぎ，体系的・系統的な教育活動として，実現させる意識的な取組みを行えば，児童のキャリア発達を効果的に促し，よりよく生きていくための資質・能力を育むことができるのではないか。

5　研究の内容

(1)　キャリア教育の現状と課題について，共通理解を図る。（理論研究）

(2)　これまでのキャリア教育の目標及び全体計画を見直す。（※ SWOT 分析の活用）

※　学校の内部環境の具体的な状況を強みと弱みに，学校を取り巻く外部環境具体的なの状況を機会と脅威に分類することにより，多様な観点から課題の解決策を構築する手法

(3)　「基礎的・汎用的能力」の中から，育てたい力を重点化する。

(4)　学年部ごとに目指す児童像を具体化し，目標を設定する。（全体計画の作成）

(5)　キャリア教育アンケートを作成し，実態調査を実施し，結果を分析する。

(6)　重点化した力に関連する学習活動をピックアップする。

(7)　教科の洗い出しを行い，活動をストーリー化する。（事前・事後指導の流れを作成する。）

(8)　キャリア教育全体計画のもと，各学年ごとに年間指導計画を作成する。

(9)　特別の教科「道徳」学習指導要領改正について，内容の共通理解を図る。

(10)　キャリア教育の視点に立った総合単元的な道徳の研究授業を実施する。

(11)　ドリームフラワー（ワークシート）「志ファイル」の活用方法について検討する。

(12)　キャリア教育の評価を行い，その改善を図る。

6　研究の実際

本年度は，１学期にキャリア教育についての理論研究を行い，２・３学期に総合単元的な道徳の授業を通して，研究を深めることを共通理解し，左記のような研修計画を立てた。全体研修の他に研究推進委員会の時間を設け，諸準備に当たった。

研究推進委員会では，キャリア教育の理論で学んだことをどう実践に生かすか方向性を話し合ったり，研究授業を通して得られた成果と課題を再確認し，次の授業に生かしたりするようにした。

研究授業は，上学年と下学年に分かれ，それぞれ部長を中心に総合単元的な道徳の学習の構想化，実態調査の実施，分析，指導案検討，研究授業の係分担，授業の準備，模擬授業の実施などをチームで行うようにした。また幅広い助言をいただくためにも指導案検討の段階から講師を招聘し，指導法について助言をしていただいた。

【別紙参照①】職員研修年間計画一覧表

(1)　キャリア教育の理論研究について（６月１日テーマ研修にて）

平成 27 年５月 11 日～ 15 日まで，独立行政法人教員研修センターで，キャリア教育指導者養成研修に参加し，キャリア教育の理論を学ぶことができた。この研修から各学校段階におけるキャリア教育の先進事例から，学校全体で取り組むための必要な事柄を学ぶとともに，発達段階に応じたキャリア教育の在り方について理解することができた。この研修で学んだことを還元するために，研修報告書を作成し，職員に配布した。

また，長田先生の作成されたプレゼンを参考に，本校の理論研究用としてのプレゼンを新たに作成し，活用を図ることにした。

この研修を通して，キャリア教育の現状と課題について共通理解を図ると共に本校の研修の方向性について明らかにすることができた。

(2)　キャリア教育の目標及び全体計画の見直し

（6 月 22 日テーマ研修にて）

本校児童の長所や短所をより明確にするために，職員の感じている強みと弱みを付箋に書き，右の表に添付してもらった。

また，文部科学省が推進するキャリア教育において提示された社会的・職業的自立に必要な力「基礎的・汎用的能力」を受けて本校では，下記のように４つの力に整理し，それぞれの項目で，具体的にどんな力を育みたいのか，各学年で話し合った。

【「育みたい力」の分析】
データ化した資料
【別紙参照②】

【本校のキャリア教育　４つの基礎的・汎用的能力】

人間関係形成・社会形成能力（かかわる力）　自己理解・自己管理能力（みつめる力）

課題対応能力（考える力）　キャリアプランニング能力（みとおす力）

(3)　育てたい力の重点化

付箋を貼った一覧表をもとに，本校児童の育てたい力について職員で話し合った結果，次のように育てたい力を重点化した。（特に「考える力」と「みとおす力」を重点的に指導する。）

かかわる力　人間関係形成・社会形成能力

集団や組織の中でよりよい人間関係を築くとともに，自分にできる役割を見つけ出して，積極的に行動する力（本校児童の強みを伸ばす。）

考える力　課題対応能力

失敗した経験や分からないことがある時，より良い方法を見出し，自ら解決しようとする力

みとおす力　キャリアプランニング能力

自分の将来の夢や目標に向かって，できることを考え，実践しようとする力

(4)　キャリア教育目標の設定及び全体計画作成

本校のキャリア教育目標を次のように設定し，「かかわる力」「考える力」「みとおす力」について，学年部ごとに目指す子ども像を具体化した。

【本校のキャリア教育目標】

人や社会とのかかわりを大切にしながら，自分の夢や希望に向かって，よりよく生きようとする態度を育てる。

本校のキャリア教育目標

人や社会との関わりを大切にしながら，自分の夢や希望に向かって，よりよく生きようとする態度を育てる

目指す子ども像の具体化

基礎的・汎用的能力	低　学　年	中　学　年	高　学　年
人間関係形成 社会形成能力 かかわる力	【本校児童の強みを伸ばす】 自分にできることを考え，自分の役割を見つけ出して行動することができる。		
課題対応能力 考える力	①　決められたことをしっかりとできる。 ②　失敗を素直に認め，なぜ失敗したのかを考えることができる。	①　自分の力で課題を解決しようとすることができる。 ②　失敗したとき，次にどうすればよいかを考えることができる。	①　課題を発見し，よりよい課題解決の方法を選択することができる。 ②　失敗した経験を次に生かすことができる。
キャリアプランニング能力 みとおす力	①　将来の夢をもつ	①　将来の夢をもち，身近な目標を設定し，今，できることを考え，取り組むことができる。	①　自分の将来の夢や進路の実現のために，自分で目標を設定して達成するための努力や工夫をすることができる。

これをもとに新たなキャリア教育全体計画を作成した。【別紙参照③】

(5)　キャリア教育アンケートの実施と結果分析

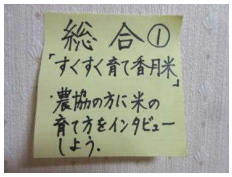
実態調査においては，職員研修で行った SWOT 分析だけでなく，小学校キャリア教育の手引きに示されているアンケートを自校化し，児童 331 名と職員 11 名を対象に調査した。

（アンケートは，低・中・高学年ごとに実施した。）　【別紙参照④】

【分析結果より】

教児共に共通して数値の低い項目は，「将来の夢について，どんな仕事があるかを調べたり，学校や家庭でよく話をしたいしていますか」と「何かをするときに見通しをもち，計画的に取り組んでいるか」という内容であった。レーダーチャートの結果から，「課題対応能力」（考える力）や「キャリアプランニング能力」（みとおす力）に課題があることが分かった。

(6)　重点化した力に関連する学習活動の洗い出し（８月 21 日のテーマ研修にて）



各学年ごとに重点化した力に関連する学習活動をピックアップし，左記のように付箋に単元名と育む力に結び付く具体の活動を記述するようにした。

（この際，重点化した活動を育てることが特に期待できる活動を精選していくことが大切である。）

上記の付箋は，第５学年の総合的な学習の時間の活動である。関連する力は，課題対応能力「考える力」である。これから，さらに他教科の活動につなげていく。

(7)　活動のストーリー化（事前・事後指導の流れを作成する。）

例　「みとおす力」（５年生）でピックアップした単元名と学習活動

【音楽】	【学校行事】	【道徳】	【国語】
世界の音楽 いろいろな指揮を知ろう	学習発表会 自分の夢やできるようになったことを発表しよう。	希望・勇気・不撓不屈 「タクトにこめる情熱」 夢を近づける前向きな生き方について考える。	千年の釘にいどむ 伝記を読んで自分の生き方について考える。

〈この作業で注意すること〉　①イベント（特設授業）には要注意　　②行事の下請けは禁物

(8)　キャリア教育年間指導計画の作成

単元の実施時期や全体のつながりを確認しながら，年間指導計画として仕上げる。児童の意欲の持続化を図るには，１～２ヶ月のスパンで活動を設定するのが望ましい。また，年間指導計画は，重点化した力を育むためのものであり，隙間があっても構わない。活動を十分に精選しないと，全ての活動がキャリア教育につながるということで煩雑になりすぎて，実践化しにくくなる恐れがある。数が多すぎる場合は，優先順位をつけて見直しを図る必要がある。

また，キャリア教育を十分に展開するためには，学校外の教育資源を有効に活用し，児童に望ましい勤労観や職業観を育む指導が不可欠である。縦（校種間）や横（家庭や地域）との連携を深め，どのような地域人材等の活用が効果的な指導につながるのか明らかにし，指導計画に盛り込むことも大切である。

年間指導計画を校内に掲示し，活動の変更点や地域人材等をその都度記入しておくとより実践的な指導計画になる。

データ化した各学年の年間指導計画　【別紙参照⑤】

（１年）（２年）（３年）（４年）（５年）（６年）（特別支援）

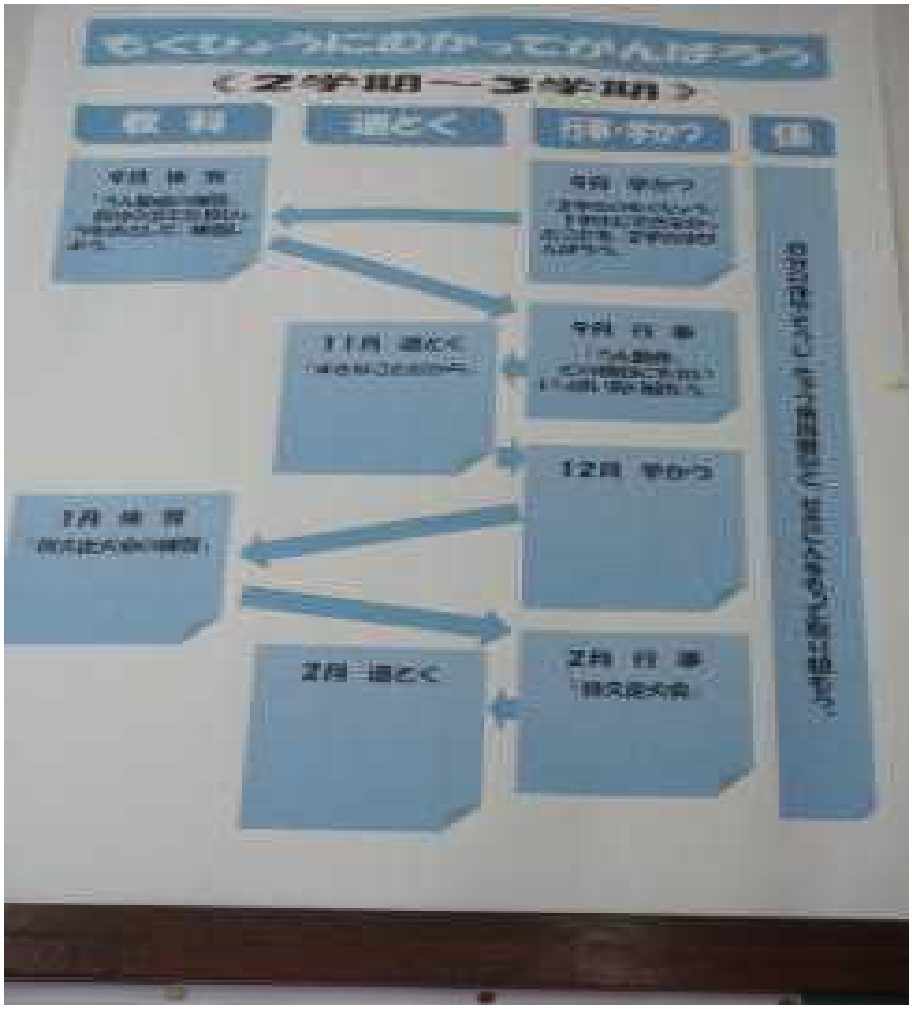
(9)　特別の教科「道徳」学習指導要領改正について（８月 21 日のテーマ研修にて）

特別の教科「道徳」が平成 30 年から施行される。これまでの道徳からどのように変わるのかを職員に周知しておく必要があると考え，資料を作成し，配布した。

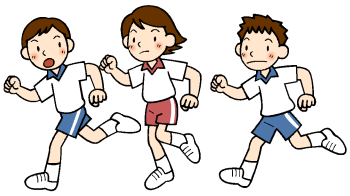
(10)　キャリア教育の視点に立った総合単元的な道徳の研究授業の実施（みとおす力）

道徳の時間を要とした総合単元的な取組例（第３学年）総数８時間

総合単元名「かがやく自分になろう」【1－（2）勤勉・努力，忍耐】



前ページの単元構図を見ると，「道徳の時間」を軸にして，教科や特別活動，学校行事と関連付けるとともに，日常生活とリンクさせることによって，目標達成のための意欲を持続させることを可能にしている。 自分でやろうと決めたことは，困難なことがあったとしても，粘り強く最後までやり遂げようとする心情を育てる。



イ　実際（資料名「すきなことだから」）（学研教育みらい３年）

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点・評価
気付く	1　運動会のとき書いたドリームフラワーのことを思い出し，目標達成のために頑張れたこととそうでなかったことについて話し合う。 2　本時のめあてを知る。 目標に向かってがんばるとき，どんな気持ちが大切だろうか。	５分	・　努力できたところとそうでなかったところを掲示し，がんばることの難しさに気付かせる。
とらえる ふかめる	2　資料「すきなことだから」を読む。 (1) 高橋選手は，シドニーオリンピックで２位の選手に追い上げられたときどんなことを思ったか。 ・　どうしよう。ぬかれるかも。 ・　負けるはずがない。 (2) 小学生のときのマラソン大会で，靴が脱げたり，転んでけがをしたりした時，尚子はどんなことを思ったか。 (3) 小学生の大会で，トップでゴールした時，どんなことを思ったか。 (4) シドニーオリンピックでゴールした時，どんなことを思ったか。 3　目標に向かって頑張るとき，どんな気持ちが大切かを考える。 ・　最後まであきらめない気持ち	３０分	・　自分達の運動会に向けての頑張りと比較して，目標に向かって頑張ることは難しいがなぜ，高橋選手は最後まで頑張れたのかということを意識させる。 ・　資料は教師が範読する。 ・　高橋選手が２位の選手に追い上げられている場面の映像から，マラソンの過酷さと追い込まれている状況に気付かせる。 ・　２度のアクシデントから立ち上がり，ゴールしたときに大きな拍手と歓声がなぜ起きたのか。 （評価）困難なことがあっても，目標に向かって努力をし続けるにはどんな気持ちが大切か。

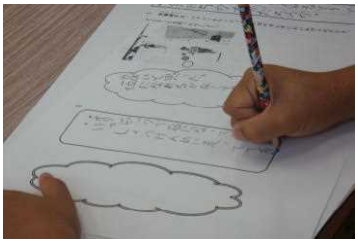
成功体験だけでなく，失敗体験など，これまでの経験を想起させ，問題場面を把握させ，ねらいとする道徳価値へ方向付けする。

資料分析を十分に行い，道徳的価値とキャリア教育で育みたい能力の関連を明確にしておく。そのことを踏まえ，中心発問を設定する。

登場人物に自分を重ね，考えや行動に共感したり，批判的に検討したりすることで価値を追求させる。視聴覚機器等を使い，資料内容を深く受け止めることができるようにする

⇒　児童はなりたい自分に気付いたりなりたい自分を見つけようとする。

ふり返る	4　新しい目標を決め，それを達成するために必要なことをドリームフラワーにまとめる。	１０分	・　自分の目標を達成するためには，どんなことを粘り強く頑張っていかなければならないかを考えさせる。



ねらいとする価値の追求のために，資料を離れ，自分自身の行為や経験をふり返って見つめ直すようにする。その際，なりたい自分に向けての実践化の意欲付けを図るため，ドリームフラワーを活用する。（左写真参照）

○　本年度の実証授業

１１月　９日　第１回研究授業　　３年　資料名「すきなことだから」（みとおす力）
　　５年　資料名「タクトに込める情熱」（みとおす力）

２月　８日　第２回研究授業　　１年　資料名「ケイくんのたくはいびん」（かかわる力）
　　６年　資料名「食べ残されたえびになみだ（考える力）
　　【別紙参照⑥】

(11)　ドリームフラワーの活用方法について

ア　**「志（こころざし）ファイル」**の活用について

ねらい：　目標に向かって何ができるかを考える力やうまくいかなかった時，次にどうすればよいかということを考える力を育むために活用する。

対象学年：　全学年

内容：　写真のドリームフラワーに目標や夢を記入し，活用する。

記入の仕方は下記の通りである。

花びらの中心：夢や目標	**花びら：夢や目標を達成するための力**
茎の部分：自分の名前	**葉っぱ：自分を応援してくれる人** **家の人からのメッセージ**
鉢：自分をふり返って	**花台：教師のコメント**

今後は，個人で書いたドリームフラワーをポートフォリオとしてストックし，できれば中学校と　連携し，９年スパンで活用していきたい。

(12)　評価の方法について

キャリア教育では，内容によっては一時間のみで児童の変容を見取り，評価することは難しい。授業のねらいとその時間の活動の実際，そして授業後の児童の変容を踏まえた上で，内容によっては，複数時間（単元）の学習を通して評価するなど，中・長期的な評価の視点も併せもって実施していく必要がある。本校では，ドリームフラワーに色を塗り，達成度がどのくらい進んでいるかを見取ることで，個人の評価として活用していく予定である。

7　研究の成果と課題

(1)　成果

○　何よりキャリア教育を職員研修に位置付け，理論研究から年間指導計画の作成に至るまで，全職員一丸となり，研究を深めることができたことが一番の大きな成果であった。特に重点化した力を育むために，教科の洗い出しを行い，意図的に活動をつなげ，実践したことは，職員の意識改革につながるものになったと強く感じている。

○　ドリームフラワーを活用することで，児童は，将来の夢や目標について具体的に考えることができ，学ぶ意欲の持続化につながった。今後は，児童の変容を見取る個人評価としても活用できると期待できる。学校行事など積極的に取り組む児童が増えてきた。

(2)　課題

○　教科書が新しくなり，学習内容の洗い出しを行うのに苦労した。特に一年生に関しては，学習活動をストーリー化するのが難しいという声が上がった。児童のキャリア発達を促すためにどのように活動を洗い出し，つなげていけばよいかまだまだ見直していく必要がある。

○　保護者や地域の方にキャリア教育を推進する必要性を説明し，理解を求め，学校と家庭・地域とが一体となって児童の今後を見守っていけるような協力態勢を整える。

【参考文献】

・　「キャリア教育」資料集　文部科学省・国立教育政策研究所　H27　５月発行
・　指導資料　県総合教育センター　教育経営　第３２号
・　キャリア教育　短期研修資料及び協和小学校　キャリア教育　研究紀要
・　仙台自分づくり教育　推進の手引き（仙台市教育委員会）　他